



## 可能性が広がる留学

アメリカ・ミシガン州のオークランド大学への留学は、私に新しいものを感じさせてくれた。それは初めて出会う文化だったり、慣れない環境に対処することだったり。また逆に自分自身や日本についても改めて考えさせてくれた。普段の生活とかけ離れた場所での新しいライフスタイルは、私に様々な発見や可能性そして希望を与えてくれた。

### 英語と私

留学の一番の目標は英語の力を伸ばすことだった。世界で働くという夢があるため、コミュニケーションの道具である英語は身につけておきたいと思った。



コロンビアとリビアからの友達と

現地入りしてすぐぶち当たった困難は、友人との会話。大学の授業は理解させるための論理立った内容だったので分かりやすかった。逆に友人が話す言葉はスピードが速かったりまとまりが無かったりスラングが多かったりと、当初は理解にとっても苦しんだ。また私自身もうまく英語を喋ることができず、会話では頭で英語を組み立てようと必死になっていたから、自然に笑うことも、相手の目を見て話すこともできないような状態だった。変化を感じ始めたのは留学開始から3ヶ月後ぐらい。英語を喋ることに對して慣れてきたのか、初対面の人ともうまく会話できるようになってきていることに気が付いた。頭をフル回転させなくても口から



ルームメイトと大学のマスコットと

英語が出てくる、という感覚が芽生え始めた。ここから少し自信が生まれ、クラスでも積極的に発表したり交流の場を増やそうという意識が強くなりました。

### 大学の勉強

オークランド大学では1学期に3~4科目履修する学生が多い。私は滋賀大では1学期に10以上の科目を取っていたから、驚いた。また学生は授業に対してとても熱心だった。自分でローンを組んで学費を払う人が多いからかもしれない。試験

では80点、90点以上を狙うのが当たり前のように、“良”や“可”では不十分とみなされていた。突然先生に考えを聞かれても、なるほどと思わせるような回答を即座にできる人も多く、皆真剣に授業を受けているのだと感心した。私もそんな学生たちに感化され、英語に慣れてきた2学期目は精力的に授業に取り組み、結果的に成績優秀の評価を受けることができた。

### 私と美術

オークランド大学は総合大学で美術の授業もあった。私はもともと絵を描くことや鑑賞することが好きだった。いつか勉強してみたいと思っていたので、2学期目には油絵の授業を履修することにした。授業はとても自由な雰囲気クラシックやジャズを聴きながら課題の油絵を描いたり、出来上がった作品について論評したりした。絵を描いているときには自分の表現したいものを表現できる喜びが感じられ、また自分がどういう感性を持っているのかを静かに見つめる貴重な機会にもなった。さらに美術作品の持つ美しさや絵の具の色にも心が癒された。美しいものを共有することで仲良くなれた友達もいた。これは留学で選択肢が広がっていなければ体験できなかっただろうと思う。



描いた絵が学校に展示された

### 私の希望

留学生活を通じて感じたのは、アメリカにいる人たちにもっと日本のことを知ってもらいたいということだった。日本の製品やサービスの質の高さに感動したこともしばしばだったし、物だけでなく日本人特有の考え方や文化で素晴らしいと思うこともたくさんあった。そして国の異なる人々がお互いのいいものを知れば、より良い生き方ができるのではないかと希望を感じた。将来はそんな日本の魅力を世界に発信できるような仕事をしてみたいと思う。

最後になりましたが、今回の留学に関わり、たくさんの方にお世話になりましたことを本当に感謝しています。ありがとうございました。